表紙の写真から

冬の夜空に願いを込めて

上桧木内の紙風船上げ

2月10日、紙風船広場で「上桧木内の紙風船上げ」が行われ、約50基の紙風船が夜空に浮かび上がりました。

当日は、桧木内小中学校の児童や生徒が、干支の兎の絵や合格祈願の文字に願いを込めて制作した紙風船のほか、北秋田市の大阿仁小学校がこの3月で閉校となることから、閉校記念事業の一環として「ありがとう大阿仁小」と感謝を込めた紙風船も打ち上げられました。

午後6時からの一斉打ち上げは、水分を多く含んだ降雪の影響で、紙風船が落下し事故につながる危険性もあることから、ロープを付けて30メートルほどの高さまで浮上させ、紙風船に書かれた「武者絵」などを観衆に披露しました。浮力がなくなった紙風船は、ゆっくりと降り、寒い夜空と会場を訪れた皆さんを灯してくれました。

上桧木内紙風船上げ保存委員会の阿部明雄会長は「少子高齢化や人口減少など、紙風船の作り手が少なくなった。以前は100基近い紙風船を上げていたが、今年は50基ほど。個人でも団体でも作り手となってこの伝統行事に参加いただきたい」と話しました。

それぞれの願いを込めて夜空へ。

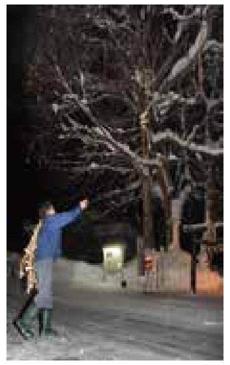
子宝や縁結び、家内安全などを祈願

中里のカンデッコあげ

2月5日、中里塞之神堂前（桧木内字中里）で「中里のカンデッコあげ」が行われました。

カンデッコあげは、ホオノキで作った小型のくわ（カンデッコ）とクルミの木で作った男根をしめ縄の両端に結んで一対にしたものを、豊作や子宝、家内安全を祈ってご神木の桂の木に投げかけます。うまく枝にかかると願いが叶うと言われています。

地域住民は、高さのある桂の木にカンデッコを上手に放り投げていました。


ご神木に向かってカンデッコを放り投げます。

規模を縮小して開催

なろか

2月5日、市役所田沢湖庁舎前広場で「なろか」が開催されました。

この「なろか」は、田沢湖生保内地区に古くから伝わる小正月行事で、稲わらに火を付けて振り回し、害虫を追い払うしぐさで五穀豊穣を祈願するものですが、新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小し、正月のしめ飾りなどを焼くお焚き上げのみ行われました。

しめ飾りなどのお焚き上げが行われました。

栄光・表彰 ～輝くとき

仙北市芸術文化章授章式

2月5日、仙北市芸術文化協会（平岡三郎会長）が主催する「第17回仙北市芸術文化章授章式」が西木温泉ふれあいプラザクリオンで開催され、畠澤みつ子さんと柴田政幸さんに芸術文化章が贈られました。

【地域・日本舞踊】
畠澤みつ子さん
（81歳・西木町西明寺）

昭和60年から藤蔭流の日本舞踊を藤蔭季代恵先生から伝授。同62年に結成された「季久秋会」などで踊りを指導し、現在に至ります。

平成9年には藤蔭流師範となり、以来地元老人クラブなどでの指導のほか、ボランティアやチャリティーショーでも活動しています。

30年以上の長きにわたり日本舞踊の普及発展や指導育成に尽力されました。

【地域・川柳】
柴田政幸さん
（72歳・角館町東勝楽丁）

角館町芸術文化協会発足当時に父・政之助氏が務めていた「ふるしろ川柳会」の会長を引き継ぎ、現在に至ります。

教員時代には、神代中学校と角館中学校在職中に川柳クラブをつくるなど、生徒を通して川柳を地域に広めました。

また、父と妻・聖子氏、本人の共著で句集を発行するなど川柳の普及に貢献されました。

秋田県と仙北市が誘致企業に認定

株式会社リベンリと立地協定締結

県と市が誘致企業として認定した株式会社リベンリとの立地協定締結式が、2月6日、県庁で行われました。

締結式には、同社の倉橋康友代表取締役と佐竹知事、田口市長が出席。それぞれが協定書に署名し、協定が締結されました。

同社は、平成30年に神奈川県で設立され、現在は藤沢市に本社をおく従業員14人の事業所で、自社開発ソフトウェアサービス「Litera App（リテラアップ）」の提供やソフトウェア受託開発、マーケティング支援の事業を主に展開しています。

首都圏における情報通信業が、人材不足から採用が困難な状況にあるなかで、昨年市が主催したサテライトオフィス誘致促進事業の市内視察ツアーに参加したこと、仙北市が国家戦略特区に指定されていることなどが決め手となり、この4月1日から角館駅周辺に事業所を開設し、現地法人「株式会社リベンリ秋田」（櫻井誠代表取締役）を設立し、地元人材やUターン人材の採用を進め、地域活性化事業なども展開する予定となっています。

2月7日には、市役所田沢湖庁舎を訪れ、田口市長を表敬訪問した倉橋代表取締役は「私たちの仕事はネット環境が整っているとどこでもできる。ソフト面については慣れていることもあり、パソコンのなかで見える化につなげることは私たちでできる。ハード面やこのような人材面については、東京のメンバーとともに取り組み、地域課題に対してどのように貢献できるか考えていきたい」と話しました。

なお、市の誘致企業認定としては、株式会社リベンリが第1号となります。

左から赤上副市長、㈱リベンリ秋田の櫻井誠代表取締役、㈱リベンリの倉橋康友代表取締役、田口市長。

仙北市×生活協同組合コープあきた

包括連携に関する協定を締結

2月9日、仙北市と生活協同組合コープあきたが包括連携に関する協定を締結しました。

この協定は、市民の幸福度ナンバー1のまちを目指し、様々な地域課題の解決に取り組んでいる仙北市と宅配や共済、灯油事業により地域に密着した事業を展開しているコープあきたが連携し、さらなる市民サービスの向上と安心・安全な地域づくりに資することを目的とするものです。

締結式でコープあきたの三浦貴裕理事長は「コープあきたが持っている力のすべてを駆使して仙北市の発展と市民の皆さまの暮らしの向上に貢献していきたい」と話しました。

〉〉〉連携事項
1. SDGsの達成に向けた取組に関すること。
2. 暮らしの安全・安心に関すること。
3. 地場産業の振興と情報発信の取組に関すること。

協定を取り交わした生活協同組合コープあきたの三浦貴裕理事長（右）と田口市長（左）。

第9回ものづくり日本大賞

インスペック株式会社が経済産業大臣賞を受賞

第9回ものづくり日本大賞で、インスペック株式会社が開発したスマートフォンの普及に貢献する世界最高性能「ロールtoロール型FPC検査装置」が経済産業大臣賞に選ばれ、菅原雅史代表取締役社長のほか開発に携わった社員5人の方が受賞しました。

2月9日には市役所田沢湖庁舎を訪れ、1月23日に行われた表彰式で西村経済産業大臣から受け取った賞状と記念メダルを持参し、田口市長へ受賞が報告されました。

この「ものづくり日本大賞」は、日本の産業や文化の発展を支え、国民生活の形成に大きく貢献してきたものづくりを継承、さらに発展させていくため、特に優秀と認められる方々を表彰する制度で、東北では同社が唯一の受賞者として選ばれています。

報告に訪れた菅原社長は「受賞は会社ではなく、社員個人が表彰されたもの。人材育成は未来に向けた投資で、すぐに成果にはつながらないが、会社の成長のために最も大切な投資だと考え取り組んでいる」と話しました。

田口市長（右）に受賞の報告に訪れた菅原雅史代表取締役社長（左）。